

イギリスのホームゾーン整備状況と  
地域コミュニティへ与えた影響  
—マンチェスター・ノースムア地区を対象として—

Situation of Home Zone Projects and the Effect on Local Communities in the UK  
—A case study in Northmoor, City of Manchester—

原        わかな        薬 袋 奈美子  
Wakana HARA        Namiko MINAI

# イギリスのホームゾーン整備状況と 地域コミュニティへ与えた影響

—マンチェスター・ノースムア地区を対象として—

Situation of Home Zone Projects and the Effect on Local Communities in the UK  
—A case study in Northmoor, City of Manchester—

原 わかな\* 薬 袋 奈美子\*\*  
Wakana HARA Namiko MINAI

**Abstract** The purpose of this study is to investigate how the Home Zone projects effected local communities and to gain insights into improvement of social interaction and living environments in residential areas.

From research in the Northmoor area, it was determined that the Home Zone project could contribute not only to the accomplishment of traffic alleviation but also to community progress. The Home Zone project served as the impetus for three aspects, 1) generated residents proactively involved in the community, 2) established community association, 3) built physical places for social interaction. These aspects have been supporting the local community continuously over 15 years.

**Key words:** Home Zone ホームゾーン, Northmoor ノースムア地区, libing place 生活の場, community place コミュニティ空間, community association コミュニティ組織

## 1. 研究の背景と目的

### 1-1. 背景と目的

従来日本では、道路は自動車を中心とした移動空間として位置付けられてきた。しかし低炭素社会への転換、少子高齢化を本格的に迎えたことにより、歩行者、自転車利用者にもより焦点を当てた道路計画をしていく時期を迎えている。高齢者の平均寿命と健康寿命には10-12年の乖離があり、健康寿命の伸延対策のひとつとして厚生労働省は日常的に歩行時間を増やすことを推奨している<sup>1)</sup>。また、子供の体力の低下の原因のひとつとして、生活道路や空き地などでの外遊びの機会が減少したことが挙げられている<sup>2)</sup>。自動車社会として先行してきた欧州では、

オランダを先導に道路を車両の移動空間だけでなく人が滞留するための空間として明確に位置付けている国も多い。

本研究は、住宅地内の道路を人の生活の場とするために整備されたイギリスのホームゾーンの整備状況とそれが地域コミュニティに与えた影響を調べ、住民の交流を促進し、住環境を改善するための知見を得ることを目的とする。

イギリスを研究対象とした背景として、地区交通管理の法整備がある。1970年初に住宅地内の通過交通に悩まされていたオランダのデルフト市の住民活動により誕生したボンエルフ(woonerf、「生活の庭」の意味)は、1976年に交通法の一部改正により公式に導入されるようになった。ボンエルフのための法整備は、同様に地区交通問題に悩まされていた欧州各国に急速に普及した。1980年代に入ると、これらの国々は自動車の速度制限を主としたゾーン30を採用するようになった。一方、イギリスはこ

\* 家政学研究家住居学専攻  
Dept. of Housing and Architecture  
\*\* 住居学科  
Dept. of Housing and Architecture

れら欧州各国の動きに追随せず、1991年にゾーン20（マイル）を採用し、その後ホームゾーンを導入した。日本は1995年にゾーン30規制が始まっており、ゾーン規制が先に導入されている点において、イギリスと共通している。イギリスは2007年に政府によって「Manual for Street（道路マニュアル）」をこれまでの「Design Bulletin 32」に代わるものとして発行しており、この中で住宅地内の道路においても自動車中心の道路整備を適用していたことを反省し、道路を歩行者や居住者の滞留・交流の場として捉え直すという方針を打ち出している<sup>3)</sup>。以上のことからイギリスを研究対象とすることは、今後の日本の施策を検討する上で参考になる点が多いと考える。

## 1-2. 既往研究

公共施設づくりにおいて、地域密着支援組織が住民、行政、その他関係組織を結ぶコーディネーターの役割を果たし、その後の地域活動の促進にも繋がった成果を明らかにした研究があるが<sup>4)</sup>、道路整備については住民参加の合意形成プロセス及び手法の事例研究<sup>5-6)</sup>、整備後の住民による住環境マネジメント研究<sup>7-8)</sup>と、整備前または後のどちらかのみに焦点を当てたものに留まる。ホームゾーンについては、制度の運用面や行政の役割等仕組みの実態把握報告<sup>9)</sup>、ホームゾーン事業の意義を交通、治安、住環境、費用の側面から振り返りをしたものがあるが<sup>10-11)</sup>、地域コミュニティ活動及び組織の現状を調べたものはない。

## 1-3. ホームゾーンの概要

ホームゾーンとは、道路を単なる車両の通過機能とする代わりに、住民のための場として使うことで、住宅地内道路での生活の質を向上させることを目的とした道路施策である。住宅地内の道路の自動車交通を抑制することの便益を最大限にし、自動車以外の道路使用者により大きな優先権を与えることを目標に設定しており、自動車が時速20マイルをはるかに下回るよう計画されている。この背景には、特に子供が家の周辺といった大人の目の届くところで安全に遊ぶ機会を失ったこと、更に自動車購入時の車庫証明書が不必要なため、自動車の増加に伴い従来からの住宅街の道が駐車場でしかない存在に変容してしまった、といった問題意識があった。人々

は外に出ず孤立するようになり、歴史的に強固で親密な地域コミュニティを育んだ地域活動へ参加しなくなり、責任も負わなくなった。住宅地内の道路が駐車場と化すことを除いて、これらの背景は日本の現状と非常に近似している。ここで重要なのは、ホームゾーンスキームは“反自動車”を掲げてはいないことである。自動車による道路の占拠を減らし、住民が社会交流の場として道路をもっと使えると感じるようにしようとするものであり、歩車共存の概念である。

ホームゾーン施策は、1999年8月からイングランドとウェールズにおいてパイロットスキームを9地区、その後2005年春までにホームゾーンチャレンジスキームとして施策拡大プロジェクトを実施した。中央政府は3000万ポンド（約56億円、2002年の平均1ポンド＝187.88円）の予算を厳選した61地区に割り当て、最終的に59地区にて整備が行われた。対象となった地区は規模や難易度は多様であったが、住民の生活の質を向上させることと、策定プロセスにおいて密なコミュニティ参加を誓うことを共通テーマとした<sup>12,9)</sup>。

## 2. 対象地域の概要

### 2-1. 対象地域と調査方法

ホームゾーンチャレンジ整備地区のうち場所の特定が可能な55地区の中で、子供の遊び等の行為を確認できる可能性を考慮し、ホームゾーン整備地区内または隣接エリアに小学校と地域組織が存在している9地区にコンタクトし、調査への合意を得られた地区のひとつがノースムーアであった。ノースムーア地区にはNorthmoor Community Association（ノースムーア地域自治組織、以下NCA）があり、その組織の議長（Chairperson）とボランティア・コミュニティ開発担当職員（Volunteer & Community Development Coordinator）の2名を対象にインタビューをした。NCAの成り立ちや活動内容、ホームゾーン整備道路の利用状況、満足度、メンテナンス、計画時の経緯などについて聞いた。2017年7月10日にインタビューを実施し、その前後に整備地区の現地調査をした。インタビュー結果、文献<sup>13)</sup>、NCAのウェブサイト<sup>14)</sup>の情報を元に結果をまとめた。

## 2-2. ノースムア地区の概要

ノースムアはマンチェスター中心部から3km南東に位置する20世紀初頭からある居住エリアである。約1,400戸の住宅があり、多くは道路にすぐ入口が面したテラスハウス（長屋）が占めている。メイン通りの一部のみ飲食店、美容院、生活雑貨等の店が並び、周辺には小学校、病院、公園がある。

住民はパキスタン人が49%と最も多く、次いで白人が22%、連合国含めたイギリス全体の白人比率が86%であることから、この地区の人種の多様さが分かる。必然的にイスラム教徒は60%と高い。出生地は48%がイギリス及び欧州連合等以外の国であり、移民が多い。非熟練、及び準非熟練工が51%と半数を占めており、これは所得の低い層が多いことに繋がる。住宅はテラスハウスが74%と大多数を占めるが、これは郊外やインナーシティに共通する傾向である。賃貸住宅は69%で、そのう

ち住宅協会からが33%、個人の家主からが33%である。住宅の同居人数は1人から3人がそれぞれ20%前後、4人が16%と続いており、多様な世帯が住んでいる。移民が多く賃貸住宅が多いため、この地域は短期居住者が多い。

20年程前、この地域はドラッグが蔓延し銃の事件も多発していた。狭い道路の両側に駐車場と化していたため、車が通行できるスペースは非常に狭かったが、車の往来は頻繁で且つかなりのスピードを出しており、居住者にとって非常に危険な状況であった。救急車や消防車といった緊急車両の妨げにもなっていた。そのため200～250戸が空き家となっており、非常に荒廃した地域だった。

## 3. ホームゾーン整備状況

ホームゾーン整備状況を Fig. 1 に示す。メイン通



Fig. 1 Actual condition of Northmoor Home Zone project

りを挟んで、西側に約150mの通り4本（フェーズ1）、東側に約180mの通り2本（フェーズ2）で実施されており面的に広がっている。

フェーズ1は一部細い歩道が非連続で存在するが、実際には歩行者は道路中央を歩いており、歩車共存となっている。整備車道の入り口はカラー舗装とブロック舗装による曲線モチーフになっており、更にホームゾーンであることを示す黄色い大きな看板があり、他の道路とは違うことが一目で認識できるような造りとなっている。道路を横断する箇所も同様にブロック舗装と赤いペイントが施されている。歩道は黄色いカラー舗装になっており、車道とはほぼ段差はない。片側斜め駐車スペースの繰り返し、オブジェ、高木により、シケインをつくっていること、実際に車が走行できる道路幅員が狭いことで、運転者の注意を喚起し、車のスピードを抑制している。

フェーズ1の4本の通り面したテラスハウスは中央周辺で区切られて路地の様に通り抜けできるレイアウトで、路地の中程はオープンスペースがあり、カラフルなボラード、ペイントしたタイヤの遊具などがある、ポケットパークとなっている。3つのオープンスペースの広さやデザイン、設置してある遊具の状態、路地の幅や長さは通りによって異なっており、多様な空間を造り出している。

フェーズ2の入り口はコンクリート製の湾曲したオブジェに通り名が模られ、ホームゾーンの青い標識が貼付けてあるが、奥まっているのでやや見えづらい。出入り口には赤いブロック舗装、歩道は緑のカラー舗装がされているが、フェーズ1と同じく歩車共存となっている。片側斜め駐車スペースの繰り返し、ボラードにより、シケインをつくっており、車のスピードを抑制している。シケインでカーブをするところは道路横断箇所にもなっており、赤いブロック舗装と、周囲に灰色のブロック舗装が施されている。植栽は出入り口と、道路横断箇所に高木が植えられており、道路内にある高木の一部にはドーナツ状のベンチが備わっている。

#### 4. ホームゾーン整備と地域コミュニティの関わり

##### 4-1. ホームゾーン整備前

ノースムアのホームゾーン計画は、マンチェスター市が推進するいくつかの再生プロジェクトと

ともに行われた。City Council（自治体）、Residents Association（居住者組織、以下RA）、Methodist Housing Association（メソジスト住宅協会）交通局・消防から成る、ホームゾーン運営グループが立ち上がり、彼らに委託されたコンサルタントが地元コミュニティ、主要パートナーと協働してコンセプトプランを策定した。案はスケッチ、ビデオ、模型で提示され、住民の理解を促した。また2000年夏にはモックアップの作成、道路へのペイントをし、整備後のシミュレーションを実物大で行った。ホームゾーン計画策定時には、RAが自治体やコンサルタントと住民を繋ぐ役割を果たし、ミーティングでの話し合いの中心的役割を担った。住民の理解を丁寧に確かめて、必要に応じて個別に話し合いをし、また住民の意見や要望を自治体やコンサルタントに伝え、交渉を行った。定期的な公式ミーティングは隔月で行われ毎回150～200名の住民が参加しており、その他非公式ミーティングも開き、話し合いを繰り返し行った（Fig.2）。

当初の整備計画案には通り抜け路地は計画されていなかったが、話し合いを重ねる中で住民を含めた関係者で検討し最終案に至った。初期の段階から住民の意見を聞き、それに応じて柔軟に計画されたことが分かる。フェーズ2においても通り抜けプランを実施しなかったが出来ずに終わった。通り抜けのためにはいくつかの家を壊す必要があったが、フェーズ1の時に5,000£で購入できた家が、フェーズ2の時には90,000£に価格が上昇したため、予算オーバーとなり諦めた。フェーズ1実施により住宅価格が短期間で飛躍的に高くなるという効果があったものの、フェーズ2においてはそれが逆に作用してしまった。

メソジスト住宅協会はホームゾーン整備に伴い住宅を移る必要がある住民に対し、保有物件を活用し柔軟な対応をして貢献した。通り抜けできる路地と広場を作るため、いくつかの住宅を壊す必要があったが、取り壊す対象になった住宅に住んでいた人に対して、同じ建物内または通りを挟んだ向かい側の住宅に移る提案をし、同じコミュニティに留まれるように住宅を提供した。また、前に住んでいた住宅よりも広めの2、3ベッドルームの住宅を提供したため、移ることを拒否する住民は全くおらず、円満に進めることが出来た。またミーティングに参加出来ない、またはしたくない住民に対して、計画や模

イギリスのホームゾーン整備状況と地域コミュニティへ与えた影響

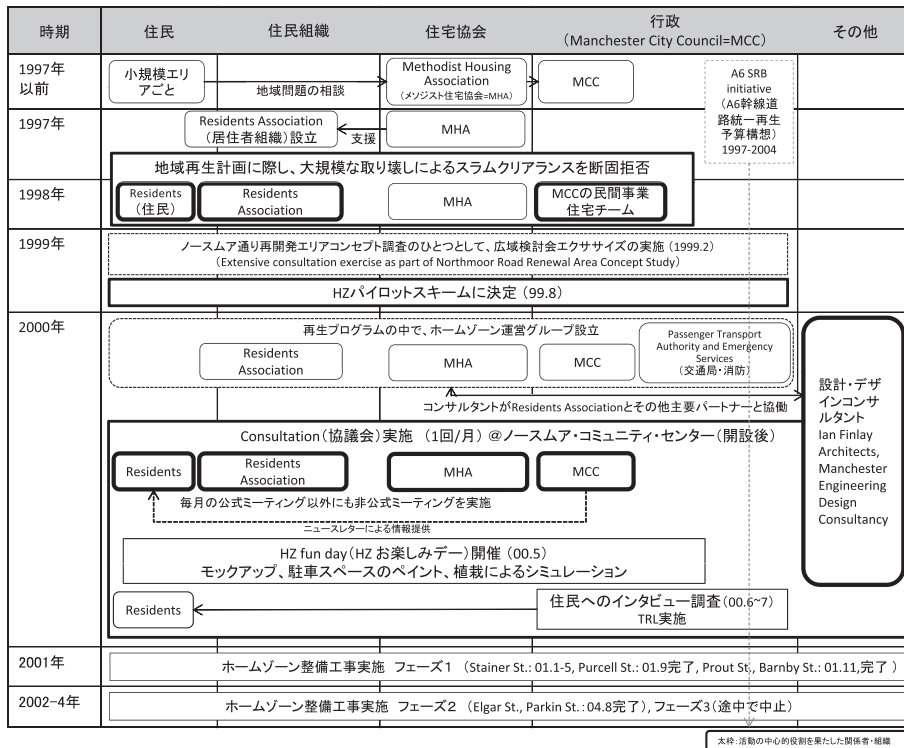


Fig. 2 Flow process with relevant organizations toward the completion of the Home Zones project

型を展示する場として空き家の提供も行った。

#### 4-2. ホームゾーン整備後

交通安全性、子供の外遊びにおいて、整備直後の状況を維持していることが確認できた。交通安全生については、整備後に実際の车速は大幅に減少してはいるが、住民はそれを実感していなかったり、子供には危険になったと感じている人が多いことから、歩車共存のコンセプトへの理解不足や、整備後の道路の使い方に戸惑っていた人が多かったと推測できる。現在も子供が駐車している車の陰から飛び出して、運転者をヒヤッとさせたり、シケインでわざとスピードを出す人があるなど、車を減速させる整備が整っていても、使う上でのルールづくりや、それを守る仕組みがないと、安全性を保つことは難しいといえる。

子供の外遊びは、もともと多いこともあり、整備をしたことにより遊ぶ時間は増えていない。しかし道

路で多くの子供が遊んでいるのはイギリスの中でも珍しく、反対の住民もいるとはいえ、こういう状況を保てているのは、ホームゾーンが道路での遊びを推奨していることが一因にあると考える。また、ポケットパークなどは、未就学児や小学生低学年が安心して遊べる場として、そしてそれを見守る大人の社交場として、有効に使われていることが確認できた。

アピランスについては、整備により向上がみられたが、それを維持、向上させることができていない。植栽の手入れは基本的に自治体が担っているが、日々の住民の協力は欠かすことはできない。自治体が植栽をダウンサイジングしたことから、住民の扱いが余程悪かったと推測できる。破壊されてほとんど残っていないベンチ、放置されたゴミなどからも、モラルの低さが垣間見える。

一方、コミュニティの交流については、2000年にコミュニティ・センターが地区の中心に開設し、住民の生活を向上させるための様々な活動を行って

おり、その活動を通じて住民交流の促進に努力している。移民、短期居住者が多く、コミュニティ形成が難しいこの地区において、現在の状況を保っているのは、NCA の存在が大きいと考えられる。

## 5. コミュニティ活動の現状

### 5-1. コミュニティ・アソシエーションの概要

ノースムアでは、RA が1997年のホームゾーン計画を検討する前から存在していた。荒廃し、治安が悪く、問題が多発していたため、その対応をするために組織化した。一方で、コミュニティ・センターは2000年のホームゾーン検討中に開設され、ホームゾーンの検討ミーティングの会場場ともなっていた。RAの活動とNCAの活動はしばらく並行して行っていたが、次第にNCAがRAの機能を引き継ぐようになったため、2010年にRAは正式に終了した。NCAは地域の中心に位置するコミュニティ・センターに事務所を構え、物理的にもコミュニ

ティの中心となった。コミュニティ・センターが入っているビルはイギリス指定建造物 Grade II に指定されており、1912年に協同組合によって建てられた、シンボリック的存在である

現在、地域コミュニティにおける活動はほぼ全てこのNCAが先導して行っており、多様な人々に対応できるようバリエーション豊かな活動を提供し続けている。特に移民に向けたサービスが充実しているのが、この地域の特徴である。低所得者層で定住率が低くコミュニティ参加意識が高くない住民に参加してもらうためには、ほとんどの活動は無料かまたは非常に低価格となっている。

### 5-2. コミュニティ・アソシエーションが提供しているサービスと利用状況

NCAが提供しているサービスをFig. 3に示す。対象を移民、大人、子供、サービスのカテゴリーを生活、職、教育、交流、健康に分類して整理した。多くのサービスは移民を対象にしている。税金控除

	移民	大人	子供
生活	<div>歳入関税の支援 所得税控除、子供扶養控除、子育て補助等に関する1on1相談</div> <div>福祉に関するアドバイス 法問題、福祉給付、公共医療サービス、移住/国籍、家族問題</div> <div>子育て相談</div> <div>コインランドリーサービス インターネットカフェ、情報提供、ミーティング場所の貸与等</div>		<div>NEXT STEP project</div> <div>運営をアウトソースしているサービス</div>
仕事	<div>職探し支援 職探しWebsiteの使用支援、就職活動、面接等</div> <div>働き続けるために身につける技能相談 持続的に働くためのキャリアパスの構築</div> <div>コンピュータースキル向上支援 PC、プリンター使用、オンライン講座</div>		
教育	<div>ESLコース (English as a second language course)</div>		<div>青少年向け学習支援 (8-16ys) 宿題、ワークショップ等のための場所提供、スタッフによる支援、PC等ツール提供</div> <div>数学学習支援 (8-16ys) 認定された数学教師による進学向け試験 (GCSE, SATS) 対策、宿題等の支援</div>
健康	<div>自己健康管理支援 体重管理セッション、運動マシーン提供</div>		
交流	<div>シニア交流会 (55才以上) ピンゴ、ラッフル、講演会等</div> <div>ランチ交流会 カフェでランチ、職員との交流、コミュニティの情報交換</div> <div>Big Thank you to all Volunteer ボランティアスタッフへの感謝のためのパーティー</div> <div>Big BBQ 誰でも参加でき、無料のバーベキュー料理が提供されるパーティー</div>		<div>未就学児保育 (0-5ys + 親/保護者) 遊び、歌、図画工作</div> <div>青少年遊び支援 (13ys+) ゲーム、遠足、図画工作</div>

Fig. 3 Community services and events provided by the Northmoor Community Association

の相談や、一部申請自体も出来る窓口となっていたり福祉に関するアドバイスを行っている。また、職探しウェブサイトの無料使用や就職活動、面接などの支援、長く働き続けるためのキャリアパスの構築といった、長期的な視点での支援も行なっている。その他に、コンピュータスキル向上支援も行なっている。これらの生活と仕事分野の5つのサービスは「NEXT STEP PROJECT」として、「自立して生きる為の様々なスキルを身につけて発展させることでチャンスをつくる」ことを目的として、現在は10名程度が参加している。

「ランチ交流会」はコミュニティ・センター内のカフェで行われ、職員との交流やコミュニティの情報交換などが行われている。毎回約35名が参加しており、重要な交流機会となっている。また地域コミュニティのパーティとして、コミュニティ・センターの発展に貢献したボランティアの人たちに感謝の意を表し、表彰を行う「Big Thank you to all volunteer」を隔年で行なっている。地元議員、自治体、地元警察署長といった面々も招待することで、活動への誇り、更なるモチベーションを持ってもらうよう心がけている。年一回行なっている無料の「Big BBQ」には、昨年100名程度が来た。その他にもア

ジア人向けパーティ、資金集めのためのイースターパーティなども不定期に実施している。

子供向けには、小学校高学年から中学生を対象とした「学習支援」を行なっており、放課後の子供の居場所、学習、交流の場として機能している。毎回10~20名程度の子供たちが参加している。

### 5-3. コインランドリーサービス

Northmoor Laundrette（ノースムーア・コインランドリー）はコミュニティ・センターの建物から通りを挟んで隣の建物にある。ここの使用料は非常に安く、日々多くの人が利用をしており、セルフサービスの洗濯の他、委託サービスも行なっている。コンピュータが数台並んでおり、インターネットアクセスは1時間1ポンドで提供している他、修理や洋服の直しサービスも付随している。休業日はなく、平日は10時から8時まで営業しており、スタッフが常駐している。利用者はスタッフや利用者同士でおしゃべりをしたり、お茶を飲んだり、読書などで洗濯の待ち時間を過ごしている。情報掲示板があり、利用者間で本の交換なども行なっており、交流の場となっている（Fig. 4）。コインランドリーをCAが運営していることはあまり知られておらず、コインラ



コインランドリーの外観



洗濯乾燥機スペースの奥に常駐スタッフがいる



PCコーナー



情報掲示板

Fig. 4 Northmoor Laundrette

ンドリーに來ているのに、コミュニティ・センターには來たことがない人も多いという。コインランドリーのような生活の一部として利用する施設が交流の場として機能していることを確認できた。

#### 5-4. コミュニティ・アソシエーションの組織

CAの組織図をFig. 5に示す。議長をトップとした10名の経営会議メンバーと12名のスタッフから成る。経営会議メンバーは、議長、副議長、秘書と経営会議メンバーの4名がいる。彼らに加え財務と地域担当マネージャーとして住宅協会から派遣されたメンバー2名、更に銀行による支援で設立された社会事業会社のダイレクターも経営会議に参加しているが、この3名は議決権を持たない。住民を代表して設立されたCAとして意思決定の独立性を尊重しているといえる。

CAの活動の実務を行うスタッフ12名のうち、フルタイムスタッフはセンターマネージャー、財務管理、ボランティア&コミュニティ開発担当職員のオフィススタッフの3名である。他はパートタイムだが、少ない人数で互いにカバー出来るような体制になっている。また、「未就学児保育」「青少年遊び

支援」「自己健康管理支援」「数学学習支援」といったサービスは外部組織や専門家へ委託している。更に、随時ボランティアスタッフを募集して、人手不足を補うよう努力をしている。ボランティアを行うこと自体がコミュニティ活動の一つになると呼びかけている。

#### 6. ホームゾーン整備の役割

ノースムア地区におけるホームゾーンの取り組みが地域コミュニティに与えた影響について人、仕組み、及びモノの3点から考察を行う。

##### 1) コミュニティに寄与する人

ホームゾーンの実施には、地域住民の理解と合意が欠かせない。住民は、通常の使い方とは異なる方法で、自宅前の道路を利用することに合意することが求められる。ノースムア地区では、低所得者が多く様々な問題が起きている地域での、行政や社会住宅管理者の主導による整備であるが、地域の改善を望む住民の積極的な参加があった。こういった住民は、コミュニティ組織の運営に係わり、地域での状況に目配りをしつづける存在となっている。

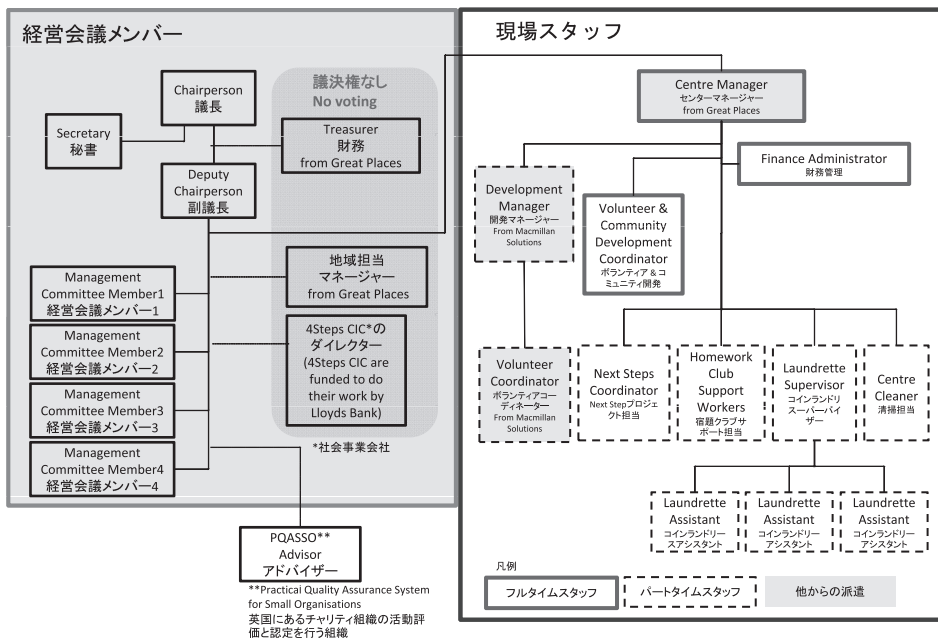


Fig. 5 Northmoor Community Association Organization Chart

このようなことが実現した背景には、ホームゾーンの取り組みでの、住民の合意形成を重視している姿勢がある。ノースムア地区は、そういったホームゾーン事業の特徴が有用され、主体的に地域に係わる意思のある住民の力を活かす場を提供したと言える。

## 2) コミュニティ組織の形成

NCA がこの地域のコミュニティ活動の核となり、低所得者の多いこの地域において、所得向上を意識したトレーニングを行うような就労支援から、ランチの提供によるコミュニティの場づくりまで、多種多様な取り組みを行っている。

低所得者地域の再生においては、空間の改善を行うだけでは不十分であり、居住者のエンパワメントも重要である。そのための核となる組織を形成することができ、そこに多くの人とエネルギーを注ぎ込むことのできる体制を整えるきっかけとなったのが、ホームゾーン事業であった。コミュニティの活力を生む核となる組織を形成するきっかけとなり、15年を経てもその組織の維持・発展を確認することができた。

## 3) コミュニティ空間の整備

ホームゾーンは、コミュニティ空間の整備として、道路を子供の遊びをはじめとした滞留空間として解放することを目的とした事業である。しかしノースムア地区は、建物に前庭があるようなゆとりある住宅地ではない。最低限のホームゾーンとしての道路整備を行うことはできているものの、活発に滞留空間として利用しうることではなく、居住者もそのような利用を頻繁に見かけるとは言わない。

一方で、ホームゾーン整備で形成されたオープンスペースは、きれいに維持されており、子供をはじめとした住民の滞留空間となっている様子が伺え、地域のコミュニティ拠点の一つとして機能していると言えよう。

NCA の建物は、集会施設、研修施設、そしてランチなどの交流施設として地域住民の集いの場となっている。困った時の相談窓口でもあり、何か交流を求めたい住民に拠点を提供している。更にコインランドリーの運営を通して、より敷居の低い交流空間を提供している。管理人を常駐させることで、効果的な情報提供及び交流を実現させている。

ホームゾーン整備及びその後の NCA の活動を通して、その主たる目的である道路空間以上に、地域

のコミュニティ活動の拠点となりうる空間整備が実現した。

## 7. おわりに

本研究では、ノースムア地区でのホームゾーン整備における地域コミュニティに関する実態を調査した。ノースムア地区における取り組みが、イギリスのホームゾーンの全体像を示すものとはならないが、ホームゾーン整備が交通静穏化策としての実績以上に、コミュニティ組織及び空間に寄与しうることが確かめられた。ホームゾーン整備がきっかけとなり、コミュニティの改善を望み主体的に関わる意思のある住民が力を発揮し、コミュニティの活性化のために持続的な活動を行う組織が形成され、更に地域のコミュニティ拠点としてのオープンスペースや NCA の建物、コインランドリーといった物理的な場の整備が行われたという考察が得られた。

### 〔要 約〕

本研究は、イギリスのホームゾーンの取り組みが、地域コミュニティへ与えた影響を調べ、住民の交流を促進し、住環境を改善するための知見を得ることを目的とする。

ノースムア地区の調査より、ホームゾーン整備が交通静穏化策としての実績以上に、コミュニティの成長に寄与しうるという考察が得られた。コミュニティに寄与する人、コミュニティ組織の形成、コミュニティ空間の整備に影響を与え、これらが15年経過した現在も持続的にコミュニティを支えていることが確かめられた。

## 付 記

インタビュー調査にご協力いただいたノースムア・コミュニティ・アソシエーションの David Callicott 氏、Fiona Gallagher 氏に心より感謝申し上げます。尚、本研究は、科研費（基盤 C 課題番号 17K00800）の成果を含むものである。

## 参考文献

- 1) 平成26年版厚生労働白書
- 2) 文部科学省：中央教育審議会（第24回）配布資料5-2（2002）
- 3) Department for Communities and Local Government, Department for Transport and Welsh Assembly Government : *Manual for Streets*, London: Thomas Telford Publishing（2007）
- 4) 三矢勝司，秀島栄三，吉村輝彦：公共施設づくりにおいて地域密着型中間支援組織に求められる役割と成果に関する研究 岡崎市図書館交流プラザ Libra を事例に，日本都市計画学会 都市計画論文集 Vol.48 No.3（2013）
- 5) 末久正樹，外井哲志，坂本紘二，薦那幸治，中原圭太：生活道路空間整備における住民参加の一形態と住民の評価 北九州市生活幹線道路整備事業を事例として，土木計画学研究論文集 No. 23 no.1（2006）
- 6) 三谷麻衣，久保田尚，坂本邦宏，御座元俊二，高橋洋二：参加型地区交通改善のための合意形成手法に関する研究 鎌倉・今小路通りにおける歩行者尊重道路を対象として，第35回日本都市計画学会学術研究論文集（2000）
- 7) 柴田健，菊池成朋：街並み計画型戸建住宅地における住環境マネジメントに関する研究 高須ボンエルフにおける街並みの変容プロセスを通して，日本建築学会計画系論文集，第558号，95-101（2002）
- 8) 柴田健，菊池成朋：維持型マネジメントの構築プロセスとコモンの再定義 青葉台ボンエルフを事例として，日本建築学会学術講演梗概集（2008）
- 9) 松浦利之，高橋勝美，平見憲司：英国におけるホームゾーン地区再生の試み，新都市 Vol.60, No.6（2006）
- 10) Mike Biddulph: *Reviewing the UK Home Zone Initiatives*, *Urban Design International*, 13, 121-129（2008）
- 11) Mike Biddulph: *Evaluating the English Home Zone Initiatives*, *Journal of the American Planning Association*, Vol.76, No.2（2010）
- 12) Department for Transport : *Home Zones Challenging the future of our streets*, 5-7, UK: Department for Transport（2005）
- 13) Institute of Highway Incorporated Engineers : *Home Zone Design Guidelines*, England: Institute of Highway Incorporated Engineers, 70-72（2002）
- 14) Northmoor Community Association のウェブサイト , <http://www.northmoorcommunity.co.uk>
- 15) 桑原わかな，原わかな，葉袋奈美子：住宅地内の道路を生活の場とするための研究その3 生活道路のゾーン対策マニュアルとホームゾーンマニュアルの市民参加に関する記載の比較，日本建築学会学術講演梗概集 2017, 165-166（2017）